

学校教育目標	○ 助け合う子 ◎ 考える子【重点目標】 ○ きたえる子	【目指す学校像】	①共に成し遂げる過程で、「ありがとう」が生まれる学校 ②児童が自他を尊重し、「やさしさ」を感じる学校③児童が課題を解決する過程で、「学びがい」を感じる学校 ④児童が心と体の健康に関心をもち、「元気」を感じる学校
		【目指す児童・生徒像】	①粘り強く目標に向かい、「ありがとう」を見付け合う児童 ②誰かのために自分ができることを考え実行する児童③思いや考えを共有し、学び合い、認め合う児童 ④一緒に運動を楽しみ、互いに支え合う児童
		【目指す教師像】	①多様な立場の人と目標を共有して協働する教師 ②児童の心情や意図の理解に努め、価値付ける教師③児童にとって魅力ある授業づくりに努め、変容を見出す教師 ④運動の楽しさと心の元気を児童に感じさせる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	児童が自ら考え、活躍することができ、「分かる」「できる」を言葉で表すことができるよう、学習過程の改善を図る。	1単元、1単位時間において「めあて」「見通し」「振り返り」のある授業を展開する。 すべての児童が活躍できる、「分かった」「できた」喜びを実感できる授業をつくる。 考えを言語化・可視化して深めることができる授業をつくる。	振り返りを生かした授業を展開する。 毎日「できた」と児童が感じる時間をとる。 考えを言語等で表す活動を工夫した授業を展開する。	4 90%以上の教員が振り返りの指導に取り組んだ	4	4 90%以上の児童が振り返りをしたと回答	3	児童が自らの学習状況を振り返って次に生かすという意識や態度は育ってきている。	B	振り返りの時間を確保し、児童自身が主体的な学習態度を意識できるよう方法を工夫する。	
				3 80%～90%未満の教員が振り返りの指導に取り組んだ		3 80%～90%未満の児童が毎日「できた」と考えた回答					
				2 70%～80%未満の教員が振り返りの指導に取り組んだ		2 70%～80%未満の児童が毎日「できた」と考えた回答					
豊かな心	児童が安全に、安心して通うことができる。保護者が安心して通わせることができる学校づくりを推進する。	あいさつの意義を考え、自分も相手も大切にすることを育てる。 「いじめ問題」はいつでも誰にも発生し得ると認識し、未然防止と早期対応に努める。 小さな問題にも気付けるよう児童理解に努め、組織的・継続的に観察・指導する。	児童が「あいさつ」「返事」「アイコンタクト」をより意識するよう取り組む。 「やさしい言葉」を増やす活動に児童が主体的に取り組む指導を継続する。 組織的に児童のサインをキャッチし、こまめに声を掛ける指導をする。	4 90%以上の教員がアイコンタクトの指導に取り組んだ	4	4 80%以上の児童がアイコンタクトができると回答	4	会釈や話を聞く態度などを指導した。新しい生活様式に合った指導を全校で継続した。	A	児童自身がよりよいあいさつについて考え実践する児童会活動を継続する。	
				3 80%～90%未満の教員がアイコンタクトの指導に取り組んだ		3 70%～80%未満の児童がアイコンタクトができると回答					
				2 70%～80%未満の教員がアイコンタクトの指導に取り組んだ		2 60%～70%未満の児童がアイコンタクトができると回答					
健やかな体	児童が自分の心を体の健康に関心をもち、運動を楽しむ態度、よりよい生活習慣や食事について考え実践する態度を育む取組を計画的に行う。	健康と食について理解を深め、望ましい生活習慣づくりに向けて実践的な態度を育む。 自分の心の健康づくりに関心をもち、他者の心も大切にすることを意識や態度を育む。	体力向上週間や授業で関心を高め、元気アップガイドブックを継続的に活用する。 「グッドモーニング60分」に家庭と連携して取り組み、児童自身による習慣化を図る。 心のもち方や他者との関わり方について学習の継続を図る。	4 90%以上の教員が元気がアップガイドブックを継続的に活用した	2	4 90%以上の児童が運動は楽しいと回答	4	体育・健康について継続的に指導したが、コロナ禍で全校での取組が困難であった。	B	安全確保に努めながら、友達と一緒に運動することのよさを味わう機会をつくっていく。	
				3 80%～90%未満の教員が元気がアップガイドブックを継続的に活用した		3 80%～90%未満の児童が運動は楽しいと回答					
				2 70%～80%未満の教員が元気がアップガイドブックを継続的に活用した		2 70%～80%未満の児童が運動は楽しいと回答					
輝く未来	目標をもって粘り強く取り組む態度を育み、人とのかわりを大切にしながら豊かな人間性やコミュニケーション能力を高める教育活動を推進する。	リーダー・フォロワーシップを理解し、自己決定のうえ実践できるような指導をする。 福島中、玉川小との連携を図り、中学校とのつながりをもった教育を推進する。 児童の目的意識や相手意識を大切にするとともに、協働し認め合う態度を育む。	リーダークラス・フォロワーシップを理解し、自己決定のうえ実践できるような指導をする。 スタンダードの内容を細分化し、スモールステップで継続的に指導する。 「ありがとう」をキーワードに、児童が相互に承認する活動に取り組む。	4 90%以上の教員が自己決定・実践の指導に取り組んだ	4	4 90%以上の児童が自分のよさについて考えた回答	3	全校や学年集団での取組は困難であったが、各学級の活動を工夫して取り組んだ。	B	感染症対策を講じながら、異学年や少人数集団での活動を工夫して取り組む。	
				3 80%～90%未満の教員が自己決定・実践の指導に取り組んだ		3 80%～90%未満の児童が自分のよさについて考えた回答					
				2 70%～80%未満の教員が自己決定・実践の指導に取り組んだ		2 70%～80%未満の児童が自分のよさについて考えた回答					